

資料

研究協力のお願

私は、聖路加国際大学院博士前期(修士)課程に在籍し、看護管理学を専攻しております、吉部恵理子と申します。この度、「師長が行う患者ラウンドの意義と病棟マネジメントへの活用」の研究を行うにあたり、研究の協力を賜りたく、お願申し上げます。

【本研究の目的と意義】

本研究の目的は、患者ケアのフロントラインの一つである病棟の師長が患者ラウンドを行う目的や意義、方法と、得た情報を病棟のマネジメントにどのように活かしているかを記述することです。

看護の質を保証する看護管理者に期待される役割は、ますます多様化・複雑化しております。とりわけ、病棟の師長にとって、患者の状況を直視する患者ラウンドは重要な業務であると考えています。病棟の師長が、患者ラウンドで何に気づき、得た情報を病棟のマネジメントにどう活かしているのかを記述することで、患者ケアの質の向上に貢献するとともに、今後の看護管理実践および師長育成の資料を提供できると考えております。

【研究方法】

以下の基準を満たす病棟の師長を対象としたインタビュー調査です。

なお、フェイスシートで以下の項目への回答にもご協力をお願いいたします。

[所属施設における患者ラウンドの指針の有無、病棟の看護管理者としての経験年数、これまでに管理者として経験した部署数、認定看護管理者研修受講の有無と研修レベル、看護管理に関する学習経験の有無、管理する部署の病床数、看護師数、看護補助者数、部署の主な診療科]

1. 部署の看護実践の最高責任者である看護管理者を担う方(師長相当の職位の方)で通常業務として患者ラウンドを実施している方で看護部長が患者ラウンドを病棟のマネジメントに活かしていると認識する方。
2. インタビューは1対1で行い、所要時間は60分以内を目標としています。インタビューでは、参加者の方が患者ラウンドを行う意義や目的、患者ラウンドで何に気づき、得た情報をどのように部署のマネジメントに活かしているかをお聞きします。
3. インタビューの日時と場所は、研究にご協力いただく看護管理者の方と相談の上設定します。
4. 研究参加者の募集については、研究にご協力いただく病棟の師長の方をご選定いただき、「研究協力のお願」(資料2)をお渡しいただけますよう、お願いたします。その方が研究にご協力くださるとのご意向がある場合のみ、研究者にe-mailでご連絡いただくよう明記しております。

【ご協力いただきたい内容】

1. 貴院において、本研究の参加者を募集することについて、承諾をお願いいたします。
2. 看護部長様に病棟の師長の方をご推薦くださいますようお願いいたします。
3. インタビューにご協力いただいた方には薄謝(1000円分の電子商品券)をお送りいたします。

【倫理的配慮】

1. 研究協力に関する任意性の確保
 - 研究依頼の際には、対象施設の看護部長、研究参加者に文書にて、目的、方法、協力依頼内容、倫理的配慮、参加による利益と不利益を説明します。研究参加者には口頭でも説明します。研究参加者にWeb上で同意を取り研究協力の承諾とします。

- 研究への参加、不参加は全て自由意思によるものであり、研究参加を拒否しても不利益を被ることは一切ないこと、研究協力で同意した後、インタビューの途中や後でも同意を撤回し研究協力を中止できること、その際にも不利益を被らないことを文書に明記し、研究参加者には口頭でも説明します。
 - 同意撤回時には、同意書への署名時に切手貼付済の封筒と一緒に渡す同意撤回書を研究者に送付するよう依頼します。研究者が同意撤回を受領した時点で、修士論文や研究論文として公表していた場合や、分析のためにデータを統合していた場合には、データを破棄できないことがあることを説明します。
 - 研究協力の諾否については、研究参加者が看護部長様に報告する必要がないことを文書に明記しております。研究者からも、研究参加者の所属期間の施設長・看護部門責任者を含む関係者には伝えないことを文書に明記し、研究参加者には口頭でも説明します。
2. 個人情報・プライバシーの保護
- インタビュー調査は参加者の希望に沿って、プライバシーの保たれる静かな個室で行います。
 - 参加者にインタビュー調査において、話したくないことは話さなくてよいことを説明します。
 - インタビュー内容は、参加者の承諾を得てICレコーダーに録音します。また、お話を聞きながら必要に応じてメモを取ります。録音の承諾が得られない場合、承諾を得た上でインタビュー内容をノートに記します。
 - 参加者および所属施設の匿名性を守るため、逐語録の作成段階から匿名で扱います。研究参加者リストは、逐語録と分けて保管します。
 - 本研究で知り得たすべての情報は口外せず、研究目的以外には使用しません。個人情報を含む資料のうち、音声データは逐語録作成後に破棄します。研究参加者リストは研究者のみ開錠できるロッカーにて保管し、データ分析完了後にシュレッダーを使用し破棄します。電子データは聖路加国際大学のルールに基づき、2段階認証プロセスを使用した Google Apps の Google ドライブに保存し、研究終了後 5 年間保管後、再現できないようにし研究者が破棄します。
 - 得られたデータを修士論文として大学へ提出するほか、学会や誌上で発表すること、その際も参加者及びその所属組織が特定されないことがないよう、匿名性を厳守します。
3. 研究参加に伴う利益と不利益
- インタビュー調査によって研究参加者や所属施設が得られる利益は特段ありませんが、インタビューが参加者の師長としての日々の患者ラウンドを振り返る機会になる可能性があります。研究参加による不利益は、インタビュー調査のための参加者の時間的な負担、およびネガティブな経験を想起することにより心理的負担を伴う可能性があります。インタビューは参加者と相談し、日時と場所を決定します。
 - 本研究について、開示すべき利益相反はありません。
 - この研究は聖路加国際研究倫理審査委員会の承諾を得ております。貴院の倫理審査をうける必要がある場合には、所定の手続きに従って受審いたします。

本研究についてご質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

研究者：吉部恵理子

所属：聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士前期(修士)課程

所属先住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：03-3543-6391

研究者 e-mail：21mn308@slcn.ac.jp

指導教員：奥裕美(聖路加国際大学 看護管理学教授)

指導教員 e-mail：hiromioku@slcn.ac.jp

研究協力のお願ひ

私は、聖路加国際大学院博士前期(修士)課程に在籍し、看護管理学を専攻しております、吉部恵理子と申します。この度、「師長が行う患者ラウンドの意義と病棟マネジメントへの活用」の研究を行うにあたり、研究の協力を賜りたく、お願ひ申し上げます。

【本研究の目的と意義】

本研究の目的は、看護ケアのフロントラインの一つである病棟の師長が患者ラウンドを行う目的や意義、方法と、得た情報を部署マネジメントにどのように活かしているかを記述することです。

看護の質を保証する看護管理者に期待される役割は、ますます多様化・複雑化しております。とりわけ、病棟の師長にとって、患者の状況を直視する患者ラウンドは重要な業務であると考えています。師長が、患者ラウンドで何に気づき、得た情報を病棟のマネジメントにどう活かしているのかをお話いただくことで、患者ケアの質の向上に貢献するとともに、今後の看護管理実践および師長育成の資料を提供することができると考えております。

【インタビューの方法】

1. 研究参加者と研究者が1対1で行い、所要時間は60分程度を目標としています。
2. インタビューは原則1回のみです。(追加でお聞きしたいことがある場合は再度インタビューをお願いする場合があります)
3. インタビューの日時と場所は、相談の上設定いたします。
4. インタビューは承諾をいただけましたら録音させていただきます、逐語録を作成し、分析をします。後日内容をメールでお送りしますので、追加・修正についてご確認をお願いいたします。

【ご協力いただきたい内容】

インタビューにご協力をお願いいたします。インタビューでは患者ラウンドをどんな目的で行っているか、患者ラウンドでどんなことに気づき、得られた情報を部署のマネジメントにどのように活かしているか、についてご自由にお話いただきます。ご自身の考えや思いなどについても踏まえてお話しください。

所属病院でのインタビューをご希望される場合には、貴院の個室等の利用についてご協力ください。

なお、フェイスシートで以下の項目への回答にもご協力をお願いいたします。

[所属施設における患者ラウンドの指針の有無、病棟の看護管理者としての経験年数、これまでに管理者として経験した部署数、認定看護管理者研修受講の有無と研修レベル、看護管理に関する学習経験の有無、管理する部署の病床数、看護師数、看護補助者数、部署の主な診療科]

【謝礼】

インタビューにご協力いただいた方には薄謝(1000円分の電子商品券)をお送りいたします。

【倫理的配慮】

1. 研究協力に関する任意性の確保
 - インタビュー実施前に、文書及び口頭で、目的、方法、協力依頼内容、倫理的配慮、参加による利益と不利益を説明します。口頭でも説明します。研究参加者同意書への署名をもって研究協力の承諾とします。

- 研究への参加、不参加はいかなる場合もあなたの意思を尊重します。研究参加を拒否しても不利益を被ることは一切ありません。研究協力を同意した後、インタビューの途中や後でも同意を撤回し研究協力を中止できます。その際には、お手数ですが、同意書への署名時に切手貼付済の封筒と一緒に渡す同意撤回書を郵送で研究者までお送りください。研究者が同意撤回を受領した時点で、修士論文や研究論文として公表していた場合や、分析のためにデータを統合していた場合には、データを破棄できないことがあります。
 - 研究協力の諾否について、あなたが看護部長様に報告する必要はありません。研究者からも、あなたの所属期間の施設長・看護部門責任者を含む関係者にはお伝えしません。諾否について一切お伝えしないことは、看護部長様宛の文書にも記載しております。
2. 個人情報・プライバシーの保護
- インタビュー調査はあなたの希望に沿って、プライバシーの保たれる静かな個室で行います。
 - インタビュー調査において、話したくないことは話さなくて構いません。
 - インタビュー内容は、あなたの承諾を得てICレコーダーに録音します。また、お話を聞きながら必要に応じてメモを取らせていただきます。録音の承諾が得られない場合、承諾を得た上でインタビュー内容をノートに記します。
 - あなたおよび所属施設の匿名性を守るため、逐語録の作成段階から匿名で扱います。研究参加者リストは、逐語録と分けて保管します。
 - 本研究で知り得たすべての情報は口外せず、研究目的以外には使用しません。個人情報を含む資料のうち、音声データは逐語録作成後に破棄します。研究参加者リストは研究者のみ開錠できるロッカーにて保管し、データ分析完了後にシュレッダーを使用し破棄します。電子データは聖路加国際大学のルールに基づき、2段階認証プロセスを使用したGoogle AppsのGoogleドライブに保存し、研究終了後5年間保管後、再現できないようにし研究者が破棄します。
 - 得られたデータを修士論文として大学へ提出するほか、学会や誌上で発表すること、その際もあなた及びその所属組織が特定されないことがないよう、匿名性を厳守します。
3. 研究参加に伴う利益と不利益
- インタビュー調査によってあなたが得られる利益は特段ありませんが、インタビューがあなたの師長としての日々の患者ラウンドを振り返る機会になる可能性があります。研究参加による不利益は、インタビュー調査のためのあなたの時間的な負担、およびネガティブな経験を想起することにより心理的負担を伴う可能性があります。インタビューはあなたと相談し、日時と場所を決定します。
 - 本研究について、開示すべき利益相反はありません。
 - この研究は聖路加国際研究倫理審査委員会の承諾を得て調査を行います。

以上の説明により、ご協力いただけます方は、お手数ですが、研究者吉部恵理子のメールアドレス 21mn308@slcn.ac.jp までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。その際、お名前と所属をお知らせください。

お忙しい中大変恐縮ですが、研究の主旨をご理解いただきご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

本研究についてご質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

研究者：吉部恵理子(よしべ えりこ)

所属：聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士前期(修士)課程

所属先住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：03-3543-6391

研究者 e-mail：21mn308@slcn.ac.jp

指導教員：奥裕美(聖路加国際大学 看護管理学教授)

指導教員 e-mail：hiromioku@slcn.ac.jp

聖路加国際大学
学長 堀内成子殿

研究参加・協力の同意書

私は、「師長が行う患者ラウンドの意義と病棟マネジメントへの活用」の研究について、説明を受け、内容を理解し、この研究に参加・協力することに同意します。

日付： 年 月 日

研究参加者氏名(ご署名)：

説明者氏名(署名)：

聖路加国際大学 研究倫理審査委員会 承認番号：22A-100

研究者：吉部恵理子(よしべ えりこ)

所属：聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士前期(修士)課程 2 年

所属先住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：03-3543-6391

研究者 e-mail：21mn308@slcn.ac.jp

指導教員：奥裕美(聖路加国際大学 看護管理学教授)

指導教員 e-mail：hiromioku@slcn.ac.jp

聖路加国際大学
学長 堀内成子殿

研究協力の同意撤回書

私は、「師長が行う患者ラウンドの意義と病棟マネジメントへの活用」の研究について、研究協力の同意をしましたが、この度研究協力を中止することにしましたので通知します。

本日まで得られたデータについては、

- 研究に使用することを許可します
- 研究に使用せず破棄してください

日付： 年 月 日

氏名(ご署名)：

同意撤回の意思を確認しました

日付： 年 月 日

研究者氏名(署名)：

※研究者が同意撤回書を受領した時点で、修士論文や研究論文として公表している場合や、分析のためにデータを統合していた場合には、データを破棄できないことがあります。

研究者：吉部恵理子(よしべ へりこ)

所属：聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士前期(修士)課程2年

所属先住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：03-3543-6391

研究者 e-mail：21mn308@slcn.ac.jp

指導教員：奥裕美(聖路加国際大学 看護管理学教授)

指導教員 e-mail：hiromioku@slcn.ac.jp

基本情報調査

この度は、「師長が行う患者ラウンドの意義と病棟マネジメントへの活用」の研究にご参加くださりありがとうございます。インタビューと併せて基本情報調査にご協力をお願いいたします。

1	所属施設における患者ラウンドの指針の有無	ある	ない
2	病棟の看護管理者としての経験年数	年 例) 師長6年目の方は5年とお答えください	
3	これまでに管理者として経験した部署数	部署 例) 現在3部署目の方は3とお答えください	
4	認定看護管理者研修受講の有無	ある	ない
5	受講された方は、研修レベルについてお答えください	ファーストレベル	セカンドレベル サードレベル
6	4以外の看護管理に関する学習経験の有無	ある	ない 例) 看護管理学修士課程, 看護協会の看護管理に関する研修など
7	6で「ある」とお答えいただいた方はその内容を簡潔にご記入ください		
8	現在管理する部署の病床数	床	
9	現在管理する部署の看護師数	人	
10	現在管理する部署の看護補助者数	人	
11	部署の主な診療科	科	
12	現在管理する部署の直近の平均在院日数	日	

本研究についてご質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

研究者：吉部恵理子（よしべえりこ）

所属：聖路加国際大学大学院看護学研究科 博士前期（修士）課程 2年

所属先住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：03-3543-6391

研究者 e-mail：21mn308@slcn.ac.jp

指導教員：奥裕美（聖路加国際大学 看護管理学教授）

指導教員 e-mail：hiromioku@slcn.ac.jp

【インタビューガイド】

1. 普段どのように患者ラウンドを行っているか。
 - 1) 毎日かどうか、そうでなければ頻度はどのくらいか
 - 2) 入院患者全員なのかそうでないのか
そうでない場合は、どのような患者を優先しているのか
 - 3) 時間帯はいつなのか、その理由はなにかあるか
 - 4) 一回にかかる時間はどのくらいか
2. どのような目的で患者ラウンドを行っているか
3. 患者ラウンドを行うこととなったきっかけは何か
4. 患者ラウンドの際に、どのようなことに気が付くか
5. 患者ラウンドの際に意図して行っていることはあるか(観察、患者や家族との会話、ベッドサイドの環境の確認等)。
※「気づいたこと」と「意図して観察していること」を両方聞く
6. 患者ラウンドで気が付いたこと、知ったことを師長としてどのように活用しているか
※成功体験を交えながら、病棟の人員配置、環境の改善など、具体的な例があれば事例で話してもらう

謝辞

修士論文執筆に際し、ご協力、ご支援、ご指導いただきました、すべての皆様に深く感謝いたします。

本研究にご協力いただきました7名の看護師長の方々、および師長の方々をご紹介くださいました看護部長の方々に、厚くお礼申し上げます。看護師長の方々が、多様な業務を抱えながら、工夫して患者さんのもとに足向け、病棟マネジメントを生き生きと実践されているお話は、経験と知識、知恵と信念に基づく、彩り豊かな看護管理実践そのものであると感じました。

聖路加国際大学看護管理学 奥裕美教授には、明晰なご指導と、働きながら就学する私のペースに合わせた柔軟なご教授を賜り、鼓舞していただきながら、論文を執筆することができました。心より感謝申し上げます。

相澤恵子先生には、入学時より、思考を深める多くのヒントをいただき、研究テーマの設定や執筆の糸口となりました。本当にありがとうございました。

聖路加国際大学看護心理学 糟谷知香江教授には、研究計画書の作成段階から、たくさんのご指導と温かな暖かなご助言をいただき、深く感謝申し上げます。

看護管理学教室の皆様との、豊富な実践経験を交えた活発なディスカッションは、知的好奇心を刺激され、執筆の励みとなりました。ありがとうございました。また、修了生、修士課程・博士課程在籍の諸先輩方や友人に支えられ、学びあいながら執筆できたことは大きな喜びです。

大学院進学から修学にわたり、多大なるご支援を賜りました、別府看護部長をはじめ、北里大学病院看護部の皆様、就労しながらの就学に快くご協力くださいました8E病棟の皆様にご心よりお礼申し上げます。

最後に、いつも、支え、応援してくれた友人、家族に心から感謝いたします。

2024年2月26日

吉部恵理子